

～かなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～



つながる



函南町幼児教育センターだより 12号

令和7年8月発行

連絡先 学校教育課内
幼児教育センター 979-8121

はじめは西部保育園の園内研修から

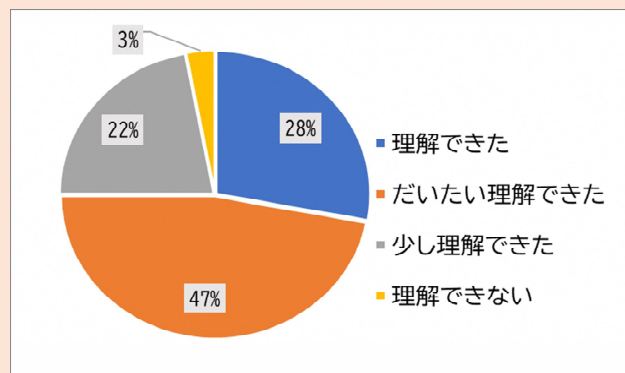
函南町のエデュケーショナル課題の一つとして、不登校・不登校傾向にある児童・生徒が多いということがあげられます。近年は特に、低学年の児童が目立つようになってきました。原因の一つとして、遊びを中心とした学びから教科の総合的な学び中心の学校生活になじむことの難しさが考えられます。

そこで函南町では、園・小中学校・行政の代表からなる函南町接続研究推進会議を昨年度設置し、架け橋期に重点を置いて園と小学校の円滑な接続を目指しています。そこで、入学時の児童がスムーズに小学校生活のスタートが切れるように、「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」を設けることを各小学校にお願いしました。

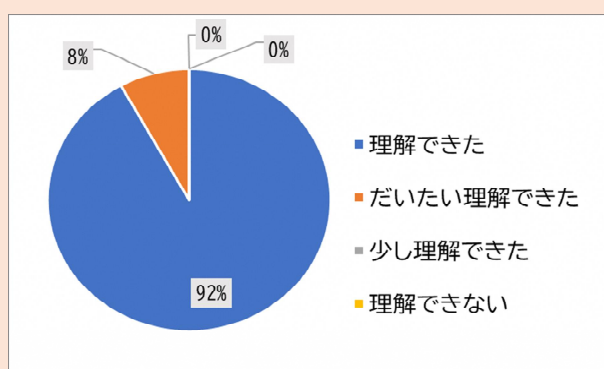
今回は、西部保育園の取り組みを紹介します。西部保育園では、年度始めに架け橋期についての理解を深める園内研修を行いました。第1回目は、幼児教育センターの架け橋コーディネーターを講師として、架け橋期の重要性について学びました。



【事前アンケート】



【事後アンケート】



研修後は、架け橋期について全職員が「理解できた」「ほぼ理解できた」と回答していました。また、アンケートの中で、架け橋期の接続を進める上で園と小学校が互いに共通理解を図るためにも、「園の保育を見ていただきたい」、「小学校の先生が望むことを聞いてみたい」、そのために「小学校の先生と交流する機会がほしい」という声が多くありました。

<園内研修事後アンケートから一部掲載>

- ◇子どもの姿を把握したり、小学校と連携したりしていきたい。特に、小学校との連携は、できていない部分があると思うので、情報共有をしてつながりをもてるようにしていきたい。
- ◇研修などで小学校の先生とお話しをする際に、少し考え方が違うなと感じる。その原因が教育の目標の違いからくるものなのではと、今回の研修で感じました。互いのことを理解し合えるような機会があるとよいのではと感じます。
- ◇小学生との交流や小学校の先生方と話す機会があったらいいなと思います。
- ◇小学校の先生方や子どもたちと交流をしたり、職員同士で園や学校の様子を見学したり話したりする機会があるといいなと思います。

東小との交流会

年度当初の研修で、「小学校の先生と話をする機会がほしい」という声を受けて、東小の1年生の担任の先生に声を掛けたところ、7月29日(火)、3人の担任の先生と教頭先生が、西部保育園へ来てくださいました。当日は、年長組[すずらん組…お祭りの法被づくり、ゆり組…お祭りのうちわづくり]の活動を見ていただきました。園の「遊びは学び」の保育や目指す10の姿が活動のどんな場面で見られるか等を視点として保育参観していただきました。

参観した小学校の先生からは、「丁寧な指導をしていた。小学校では人数が多く、そこまで一人一人にかかわることは難しい。」「何でもすぐに支援するのではなく、子どもに考えさせるために何をしたいのか、子どもの言葉で言わせていた。」「子どもが自分で考え活動していた。」「園の先生が小学校を意識して保育をしていることが分かった。」などの声が聞かれました。また、西部保育園の保育士からは「小学校の先生の話聞いたことは保育の参考となった。」「今後も、このように交流する機会があるとよい。」という声があがりました。また、園と小学校の相互理解が十分に深まったとはまだ言えないので、今後もこのような機会を設けていきたいという意見で一致しました。



【保育参観の様子】



【話し合いの様子】

1 保育を参観して(小学校より)

- 園児ってすごいなと思いました。自分で考える力、思いを形にしていく力に感心しました。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識されていることを感じた。
- 子どもたちが安心して過ごせているのがよくわかりました。自分の思いを表せて、自分でやり切ることができるのは素敵だなと思いました。
- 場の設定や道具の用意が子どもの気持ちや意欲に合っているからこそ、やる気をもって自分で作品を完成させることができていると思いました。言葉による支援が丁寧で、言葉を大事にしていることがわかりました。
- 子どもたちが自分の思いをのびのびと表現していて、とても素敵な姿でした。子どもが活動するための準備も、伸ばしたい力に合わせ指導されていて、丁寧でした。

2 小学校に向けて身につけてほしいこと

- 言葉遣い「ふわふわことば」(優しい言い方)を意識した生活
- 先生を必要とする子に先生が付けられない時があるので、できるだけ自分のことは自分でできるようにする
- 文字に慣れること(書くことより読むこと)
- 時計を見て行動する(時間を意識した生活)
- 上履きのかかとを踏まずにしっかりと履く習慣を
- トイレは一人で行ける
- ハンカチ、ティッシュペーパーを身に付けておく
- ゴミを拾うことを意識して生活をしてほしい
- 何がよくて、何がいけないのかを判断ができるようになる
- 元気で明るいあいさつができる

3 話し合いを通して[保育園]

- 実際に保育園での様子を見てもらうことで、保育園と小学校の違いや何がギャップとなるのか知ってもらうことができたのはよかったと思います。また、実際に小学校の先生から就学前に何を身につけておくと入学後に困らないのか聞くことができたので、就学までに意識して取り入れることができる。子どもたちが小学校へ遊びに行かせてもらい、様子を見させてもらうことで期待を高められたり、雰囲気味わえたりするので取り入れていきたい。
- 今日のように、お互いに少しずつでも意見交換ができる時間を作っていけるとよいと思う。
- 小学校の先生方からも貴重なお話を聞かせていただき、とても参考になりました。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿も、普段の保育の中でたくさん現れていることにも改めて気づくことができました。小学校入学にあたり、身に付けていた方がよい力についても丁寧に詳しく教えていただき、今後の保育の中でも特に意識して取り入れたい、子どもたちにも伝えていきたいと思います。